

研究課題名

透析患者における paraspinous muscle index (PSMI: 第3腰椎レベルの傍脊柱筋の面積/身長²乗) と paraspinous muscle density (PSMD: 第3腰椎レベルの傍脊柱筋の平均CT値) が生命予後に及ぼす影響について

研究責任者の氏名

矢島隆宏

共同研究者の氏名

荒尾舞子

研究の概要

目的: 透析患者においては、muscle wasting (筋肉量の減少) が生命予後に大きく影響することが知られています。最近、糖尿病、肝疾患や癌の領域において、paraspinous muscle index (PSMI: 第3腰椎レベルの傍脊柱筋の面積/身長²乗) と paraspinous muscle density (PSMD: 第3腰椎レベルの傍脊柱筋の平均CT値) が生命予後予測に有用であることが報告されています。PSMI と PSMD はそれぞれ筋肉の量と質を反映する可能性が報告されています。しかしながら、透析患者における PSMI と PSMD の生命予後予測能に関しては過去に検討されていません。今回、維持透析患者において、PSMI と PSMD の全死亡と心血管死亡との関連を調査します。

対象と方法: 2008年1月1日から2020年12月31日の間に、当院外来にて維持透析患者さんのうち、癌のスクリーニング検査の一環として腹部単純CTを施行した患者さんを対象とします。カルテから、身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、観察期間内転帰(全死亡、心血管死亡)などのデータを収集します。第3腰椎のスライスで傍脊柱筋の面積と平均CT値を計測します。面積を身長²乗で割ったものを paraspinous muscle index (PSMI)、平均CT値を paraspinous muscle density (PSMD)と定義します。2021年12月31日までの経過から、PSMI と PSMD と生命予後との関係性を評価します。

研究に関する記録は、研究終了後5年間保存した後に消去します。なお、研究の成果に関しては、学会発表や論文投稿する予定です。住所、氏名などの個人情報公開されることは一切ありません。

利用する情報の項目

身長、体重、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、CT所見、観察期間内転帰など

利用するものの範囲

医師： 矢島隆宏、荒尾舞子

連絡先

松波総合病院 腎臓内科 矢島隆宏

TEL: 058-388-0111

FAX: 058-388-4711